



東日本大震災 被災者支援募金のお願い

日本 YWCA は
あの日生まれた子どもたちが
20歳になるまで支援を続ける…と決めて
活動しています。
これからも ともに歩む ~com7300~



「com」はラテン語で「ともに」、「7300」は 2011 年に生まれた子どもたちが 20 歳を迎えるまでの日数。
日本YWCAは、被災者への支援を 2011 年 3 月から 20 年間続けるという決意から、「com7300」というプロジェクトを立ち上げています。

震災から 5 年が経ち、「復興」の声は勇ましく響きます。
けれども一人ひとりの生活は、一人ひとりの未来は、いまだとりのこされたまま。
私たちは、一緒に歩んでいきたいと願いつつ活動しています。

これまで共感して下さった多くの方たちが「com7300」ご協力くださいましたことを心より感謝いたします。

2016 年も引き続き、募金で com7300 にご参加ください

2016 年度の目標額は 600 万円です

ご寄付の宛先

- 郵便振替 00170-7-23723 加入者名:公益財団法人日本 YWCA
お名前、ご住所、電話番号、また通信欄に『com7300』とご記入ください。
- 三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743 口座名義:公益財団法人日本 YWCA
銀行振り込みの場合は、メールで①お名前、②ご住所 ③com7300 とお知らせください。
- 「かざして募金」日本 YWCA ウェブサイトトップページから、または QR コードから
ソフトバンクスマホご利用の方は電話料金から、その他の方はクレジットカードで
ご寄付いただけます。定額・毎月のご寄付も、一回のご寄付もご選択いただけます。



* お名前は機関紙「YWCA」で公表させていただきます。差支えのある方は、「匿名」の旨お申し出ください。
* 当法人への寄付金は、税額控除の対象となります。

- 保養プログラム
- セカンドハウスプログラム
- 活動スペース カーロふくしま

com7300

これら3つを柱として活動しています。

震災、特に東京電力福島第一原発の事故によって被災された女性と子どもたちの心身を守り、課題解決のチカラとなるよう取り組んでいます。



保養プログラム

心と身体をリフレッシュします



保養プログラムは参加者が放射能の影響の大きい被災地から離れ、心身ともにリフレッシュするためのプログラムです。全国各地の地域YWCA

が、それぞれの地域の特色を生かしたプログラムを夏・冬・春の子どもたちの長期休暇に合わせて行います。自然との触れ合い、海や川での水遊び、ボランティアの学生や地域の子どもの交流など、12カ所で楽しいプログラムがいっぱい。2015年度は、下記のように保養プログラムが行われ、全部でのべ322名が参加しました。みなさまのご寄付から各地の保養プログラム実施のための費用を補助し、主に、福島から保養先の移動交通費に用いさせていただきます。

◆2015年実施 保養プログラム◆

夏*	教育部書道教室・教会学校子どもたちの夏期保養プログラム	7/18	29名	福島 YWCA
	北の大地ですごす夏休み in 函館 2015	7/24-27	25名	函館 YWCA
	リフレッシュプログラム in 京都	7/24-28	8名	京都 YWCA
	大阪わいわいステイプログラム	7/29-8/4	11名	大阪 YWCA
	2015 夏休み親子わくわくピクニック	7/31-8/2	37名	静岡 YWCA
	ぶんぶん∞リトリートキャンプ	8/4-10	14名	福岡 YWCA
	八ヶ岳わくわくキャンプ	8/10-13	5名	甲府 YWCA
	ひろしまを考える旅 2015	8/11-14	59名	日本 YWCA
	2015 いりやせツアー	8/17-21	28名	名古屋 YWCA
	「めげないにげないくじけない」 地福寺住職に聴くスタディツアー	8/21	26名	仙台 YWCA
秋*	秋保温泉もみじ狩りツアー	11/13	23名	仙台 YWCA
冬*	冬のリフレッシュステイ	12/23-29	20名	東京 YWCA
春*	福島&熊本キッズ 春のわくわくキャンプ	3/25-29	30名	熊本 YWCA
	京都で進学を考えよう!	3/26-29	7名	京都 YWCA



セカンドハウス

年間をとおして家族で利用できます

横浜・名古屋・神戸にある 3 軒のセカンドハウスは、被災者の方々が家族あるいはグループ単位で滞在し、自由な時間を過ごしていただくための世帯用住居です。子どもがまだ小さい、あるいはきょうだいの年齢差などがあり保養プログラムに参加できない場合、または家族そろってリフレッシュしたい場合など、セカンドハウスを自宅のように利用することができます。これらの住居は、活動に賛同してくださった大家さんから無償で提供していただき、地域の YWCA が管理を担っています。

みなさまのご寄付から、利用者の交通費の一部を補助しています。



2015 年度は・・・

**30 家族 107 名が
セカンドハウスを利用**



横浜セカンドハウス

10 家族(おとな 14 人、子ども 18 人)

名古屋セカンドハウス

9 家族(おとな 21 人、子ども 17 人)

神戸セカンドハウス

11 家族人(おとな 17 人、子ども 20 人)

◆**利用者の声** 震災から 4 年がたち、我が家の娘はつい先日 5 歳の誕生日を迎えました。好奇心旺盛で外遊びが大好きなわが子に放射線量を気にせず、思いきり自由に好きなだけ外遊びをさせてあげたい!! 私たちは公園めぐりばかりしていました。娘は終日朝から晩まで大はしゃぎで、鳩を追いかけてまわしたり、お花をじっくり観察したり、アスレチックで体を存分に動かすことができました。そんな日常なことが、我が家の場合は贅沢なことなのです。今となっては私たちにとって保養はかせない習慣となってきています。今回お世話になった横浜セカンドハウスはいわき市からそう遠くなく、独身時に仕事で数年ほど住んでいた親しみもある街なので、第 2 の故郷という思いもあったり、駅にも近いし、家族で利用することができる私たちのお気に入りの場所となりました。今回で 3 回目の利用となるのですが、慣れてきたせいか本当に自分たちの別荘の様に居心地がよく心からリラックスでき快適な空間を過ごすことができました。



YWCA 活動スペース

カーロふくしま

女性と子どもの集いの場です

女性と子どもたちがいつも気軽に立ち寄れる場。時にはイベントや講座も行っていますが、地域の女性たちの自立的な活動を応援する場でもあります。

2015年度は、17のプログラムを行い、162名の参加がありました。また福島YWCAがカフェを開き、3回のカフェに42名の方が参加されました。

そのほか保養プログラムの地域YWCAのボランティアと参加者が、またセカンドハウスの大家さんと利用者が、福島で再会する場としても活用されました。

また保養を実施するYWCA以外の様々な団体とのつながりも大切にしています。「カーロふくしま」はこれからも福島における活動の拠点であり続ける予定です。



「カーロふくしま」は、JR 福島から徒歩7分



2015年度は…

のべ883名がカーロふくしまを利用

公益財団法人日本YWCA

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11 東京YWCA会館 302号

Tel. 03-3292-6121 Fax. 03-3292-6122 office-japan@ywca.or.jp

<http://www.ywca.or.jp/home.html>

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー/Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年英国で始まり、今では日本を含む120あまりの国で、約2,500万人の女性たちが活動しています。日本では、24の地域YWCAと36の中学・高等学校YWCAが活動しています。